専門家ですら「ステロイドが入っている!?」と勘違いする驚異のパワー！

和漢方の真髄が凝縮された薬効エッセンス

大野章/ プロフィール：明治大学農芸化学科卒。医学博士。微生物学（専門・レジオネラ菌）、シュタイナー（医学/ 生命学）思想研究者、東邦大学医学部にて、微生物感染制御学講座の専任講師就任。現在は、東邦大学看護学部非常勤講師、株式会社ユーアイナ新素材研究所特別研究顧問、アンディーズクリニック研究顧問などを勤めている。

薄井貢/ プロフィール：1983 ～ 91 年、製薬企業にて抗生物質を開発・探索するためのスクリーニング法を開発。91 ～ 2002 年、診断薬メーカーにて、遺伝子のシグナル増幅法であるバルサー法を開発。02 ～ 10 年、（株）バルマビーズ研究所の取締役研究所長に就任し、バルサー法の特許出願と製品化に従事。11 年以降、（株）ユーアイナ設立に参画後、新素材研究所の取締役研究所所長に就任。

目を疑うような改善効果と薬の限界を越える植物の力

薄井貢（以下「薄井」）：私がクマイ笹エキスに注目したのは、もう何十年も前から膠原病を患っている母の症状に有効ではないか、と思ったからです。母は、爪の生え際がグジュグジュと化膿しやすく、定期的に包帯を交換する必要があったのですが、クマイ笹エキスを塗ったら、なんと2～3日で症状が改善したのです。

その作用の仕方が、母にステロイドを塗った時の変化に似ていたため、私は経験的にエキスにステロイドが含まれていると考えました。しかし、メーカーに聞くと「ステロイドは一切使っていない」とのこと。これはスゴイ！と驚愕し、それから薬用植物の研究を本格的に始めました。

大野章（以下「大野」）：私は東邦大学の研究室にも籍を置き、薬剤耐性菌について研究していました。その時、受託した研究案件がクマイ笹エキスだったのです。

その時、「菌の耐性化」に関する試験でクマイ笹エキスを使用したところ、抗生物質を投与した菌は、ことごとく耐性化したのに、クマイ笹エキスは優れた抗菌性を発揮しながらも、菌を耐性化させなかったのです。

薄井：薬剤耐性菌は、抗生物質を使い続ければ、必ず生まれ、それへの対抗手段は中々見出せませんから、この結果は本当に価値があります。

大野：クマイ笹エキスの西洋薬との作用機序の違いにも当時から注目していましたよね。西洋薬は化学合成された単一成分で作られているため、治療範囲は限られますが、劇的に症状を改善させます。

その一方でクマイ笹エキスのような薬用植物は、ポリフェノールや、そこに含まれるフラボノイドといった多種多様の有効成分が複合的に働き、抗菌、抗ウイルス、抗炎症などの薬理効果を示し、ゆっくりですが、症状を改善させます。

このゆっくり複合的な作用機序が、菌に耐性化するための変化をさせず、薬剤耐性菌を生まないのです。

薄井：クマイ笹はその優れた薬理効果と引き換えに、苦くて飲みにくいという短所があります。このため、クマイ笹同様、和漢方の歴史の中で、有効性と安全性が実証されているうえに、クマイ笹の苦味を中和してくれます。ただ、それ以上に大きかったのが抗菌性の相乗効果。これは偶然の発見でしたが、両者を混ぜると元の抗菌性が、さらに活性化することがわかりました。

薄井：これらクマイ笹とヨモギのエキスを商品化するためには、まず、クマイ笹の固まりやすく、しみるという2つの問題を解決する必要がありました。

クマイ笹は、濃度が上がるほど有効性も高まるのですが、その分固まりやすくなり、酸性度も上がって塗るとしみるのです。しかし、当社では、クマイ笹の濃度と有効性を保ったまま、酸性度を中和し、固まる性質を抑える独自技術を開発し、その問題を解決しました。

さらに、ヨモギの高濃度エキス化はクマイ笹以上に困難でした。なぜなら、ヨモギは栄養がとても豊富に含まれており、そこに周囲の微生物が引き寄せられて腐敗が早く進み、長期保存に適していなかったためです。

そこで私たちは、濃縮したヨモギエキスを一旦蒸気で滅菌し、さらに無菌的に製剤化する方法を確立しました。この「無菌的に製剤化」というのが、非常に大変でして、「ヨモギの高濃度エキス化」が実現するまでに1年を要しました。

大野：原料にもこだわり、両者とも北海道で採れたものを使っています。農薬や排気ガスに晒されない、人里離れた原野に自生するクマイ笹とヨモギを、有効成分の含有量が増える季節に合わせて収穫しています。

国産を選んだ理由には、「日本人が健康のために摂取するなら、やはり日本の土壌で育ったものが望ましい」という考えも含まれています。

薄井：西洋薬の有用性を否定するつもりはまったくありませんが、もはや「単一成分で病原を叩く」という論理は限界にきていると考えています。薬用植物や和漢方を再評価し、その有用性を広げるためにさらなる研究・開発をしていきたいと考えています。

和漢方の真髄は医食同源であり、未病の状態で治すこと。日本の土壌で育った薬用植物を使い、多種多様の有効成分を含んだ『ヨモギと笹のエッセンス』は、まさにこの理念に叶ったものだと思います。

本商品を通じて和漢方の価値や精神が広まれば、多くの方が、西洋薬だけに頼らなくても心身を健やかに保ち、健康寿命を延ばせるようになるでしょう。

期待できる働き

- 免疫力向上
- 体内解毒作用
- 口内炎・口腔
- 皮膚炎
- 整腸作用
- 生活習慣病
- 利尿作用
- ウイルス対策

西洋薬と薬用植物の違い

	西洋薬	薬用植物
即効性	速い	ゆっくり
有効範囲	限定的	広範囲
副作用	ある	極めて少ない
臨床例	多い	すごく多い
菌の耐性化	ある	しない

ヨモギと笹のエッセンス

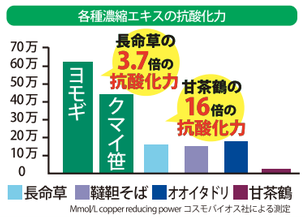
12g　9,504円(税込)

3個セット　25,920円(税込)

●原材料：オオバエゾヨモギ、クマイ笹　●飲み方：お好きなお飲み物にコップ1杯に 1 ～ 5 滴混ぜてお飲みください。温・冷どちらのお飲み物でも構いません。黒糖のような風味がします。●塗る場合：❶直接塗布する❷水に 50 倍程度に薄めてコットンやガーゼに含ませて患部に数分貼ってください。

特徴1 多種多様な効能をもつ
豊富なフラボノイド

ヨモギと笹には、薬効成分ポリフェノールが豊富に含まれており、その中でも一番多いのがフラボノイドです。主に、抗酸化、抗菌、抗ウィルス、抗真菌、抗炎症、抗アレルギー、免疫促進作用の改善等多くの効能を持ちます。



特徴2 ビフィズス菌が活性化
免疫細胞を作る

人の免疫細胞の約 7 割は、腸の中で生きています。『ヨモギと笹のエッセンス』は、特別な抽出方法によって、オリゴ糖となって抽出されます。オリゴ糖は天然の整腸剤です。ビフィズス菌が活性化することで免疫力が格段に上がります。

特徴3 抗生物質が効かない細菌に
耐性菌にも有効

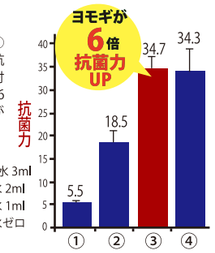
耐性菌とは、どんな抗生物質も効かない細菌のことです。いくらその耐性菌に有効な薬を新たに作っても、また新たな耐性菌が現れ、意味がありません。『ヨモギと笹のエッセンス』は、この耐性菌にも有効で、耐性化を起こさないことがわかっています。

特徴4 ピロリ菌にも有効！
腸内環境を整える

ピロリ菌は、胃の粘膜に生息している細菌で、胃炎や胃潰瘍などの胃の病気に深く関わっているとされています。クマイ笹は、胃のピロリ菌を殺菌する働きがありますが、腸内の善玉菌は生かします。悪玉菌が棲みにくい腸内細菌のバランスに整えてくれます。

特徴5 特殊な特許製法で抽出
高い抗菌活性力

ヨモギと笹のエッセンスは、特殊な特許製法で抽出され、ヨモギとクマイ笹の両エキスの抗菌活性が増強されています。さらにお互いの抗菌活性が相乗的に高まり、高い抗菌性と抗ウイルス活性を発揮します。

ヨモギエキス 10ml に、下記①②③④のパターンで調整剤（抗菌性なし）を付加した結果、付加なし（①）と比べると、約 6 倍も抗菌性が高まったことが確認されました。

ヨモギエキス (10ml)＋
①調整剤（抗菌性無）ゼロ＋蒸留水 3ml
②調整剤（抗菌性無）1ml＋蒸留水 2ml
③調整剤（抗菌性無）2ml＋蒸留水 1ml
④調整剤（抗菌性無）3ml＋蒸留水ゼロ